

学習支援×キャリアイベント

希望進路 見つけ実現へ

市議会公明党が講師の学生らと意見交換

船橋市が2022年度からスタートさせたのが、家庭の経済状況にかかわらず子どもたちが希望進路を実現できるよう支援する「高校生キャリア支援事業 Bridge」。従来、ひとり親家庭など児童扶養手当受給世帯や、それと同等水準の世帯が対象だったが、

は先ごろ、高校生年代を対象とした市の学習支援事業を視察し、講師を務める大学生らと意見交換した。

困窮世帯の高校生をサポート

千葉・船橋市

今年度からは生活保護受給世帯、さらに就学援助認定世帯、それと同等の収入世帯も対象に追加し、定員も100人まで拡充した。

同支援事業は、高校生の勉強を支える「学習支援」と将来の進学や就職を考えるための「進路支援」を掛け合わせた事業体制が特



サポートの学生らと市議会公明党のメンバー（前列右側4人）が学習について懇談する

徴。主体的に将来の目標プランを思考し、効果的に学習成果を上げていけるようサポートしている。

学習支援は、平日週2日、現役大学生らが高校生たちをサポートしている。

進路支援は、東京大学のオープンキャンパスや、プロバスケットチーム「千葉

ジェッツふなばし」でのインターンシップ、さまざまな業種に勤める社会人との交流会に参加するなど、年間を通じて多くのキャリアイベントを企画し、貴重な体験機会を提供している。

昨年、イベントに参加した高校生は「今まで関心が無かった仕事にも興味を持つてみようと思った」と話していた。

視察で市議会公明党は、大学生講師の河野竜征さんと齊藤葵さんと懇談。河野さんは、自身もひとり親家庭で育ったといい、「教育があつたおかげで将来の選択肢が広がった。次は自分が後輩の選択肢を広げて応援したい」と強調。齊藤さんは「進学で将来の夢が見つかることもある。自分の可能性を広げるためにも学び続けてほしい」と高校生たちにエールを送る。

市議会公明党はこれまでも「貧困の連鎖」解消に向け議会質問を重ねてきた。視察終了後、松崎幹事長は「今後も子どもたちの学習機会を守りながら、夢への挑戦を後押しする施策推進に努める」と語った。